

# 東京都作業療法士会ニュース

編集：東京都作業療法士会広報部

発行：会長 田中勇次郎

## 作業療法の本質を地域へ活かそう！

私が個人的に思っている凄い作業療法士とは、障害に対して治療を行い、社会参加に繋げるだけでなく、クライアントが障害を負わず、亡くなる最後まで生きたい人生を歩めるよう支援する方だと思っています。自分が大学生の時、当時学科長だった寺山久美子先生が、ケアプランを自分で作るという授業をしてくださいました。「そうか～、OTってヘルパーさんやデイサービスを計画して繋ぐことも仕事の一部なんだ」と思いました。OT免許取得後、通所リハビリテーションで勤務した際、それがケアマネジャーという方が行う仕事だということを知り、「先生、話が違いますよーっ！」とリハビリテーション室の床に向かって、サバンの八木さんのように叫んだことを今でも覚えています。

ただ、現在勤務している中野区で、介護予防の取り組みとして「通いの場」を見つけたりする支援業務を行っていますが、高齢者にとっての生きがい、やりがいを持って暮らすためには、フォーマルサービス以外の多様な通いの場が必要であることが理解できました。ケアプランを作る授業を受けていなかったら、気づくことができなかったかもしれません。OTに必要とされる、または磨くべき能力とは、利用者に対して介入したことが、目の前の事に影響するのではなく、その先の未来にも波及していくビジョンだと思っています。

私が作業療法士1年目の時、当時5年目のA先輩は、脳性麻痺で片腕しか動かせずパターン動作しか出来ない方に対して、写真の趣味獲得とそれをPC

で投稿できるように支援していました。3年目のB先輩は、家族に何もやるなと言われて、外にも出られず生きがいのないと言っていた方に対し、家族指導を含めた支援を行い、結果、通所リハを卒業し、そこにボランティアスタッフとして通われるようになりました。先輩方の先を見据えた支援技術を見たときの自分の敗北感は、アニメで見たドラゴンボールで主人公の孫悟空に比べて、圧倒的に強い53万の戦闘力だったフリーザが出現した時と同様の感情が出ていました。すみません伝わらないですね。ただ、本当に格の違いを見せつけられて、OTの深さを見せつけられた新人生活でした。

私も先日、地域の小学生が怪我無く登校できるよう建物から出た木や、壊れたコンクリート等の写真を区へ送っていた95歳の高齢の男性に声を掛け、スマホを持たされた高齢者に対して、使い方を教えるICTサポーターをやりませんかとお声掛けし、今ではその男性はチームICTという団体となって多くの住民の方にご指導され、区で実施するオンラインの体操ひろば等に繋げる支援をして下さっています。これからも少しは先輩たちに近づけるよう努力していきたいです。私はこのような作業療法士らしさは地域でこそ、より活きていると思っています。是非、機会があれば地域へ出て下さい。ご興味ありましたらお知らせくださいね。



中野区役所  
齊藤洸太

### CONTENTS

- ◆作業療法の本質を地域へ活かそう！…①
- ◆令和5年度 第15回 定時社員総会報告…②
- ◆教育部からのお知らせ…③
- ◆こども×スポーツ×OT～ジュニアわくわくスポーツ教室 活動報告～…④
- ◆子ども委員会活動報告…⑤
- ◆名称が「地域包括ケア対策委員会」から「地域づくり共創部」へ変更されます！…⑤
- ◆『認知症の人と家族が、今まで暮らしてきた地域で生活するために』…⑥

- ◆認知症にやさしい本の紹介 VOL.39…⑥
- ◆保険部 Letter ～介護保険における福祉用具の貸与・購入の利用負担について～…⑦
- ◆福祉用具部からのお知らせ…⑦
- ◆自動車運転と移動支援対策委員会 活動報告…⑧
- ◆就労支援委員会よりお知らせ…⑧
- ◆JRAT災害支援スタッフの概要…⑨
- ◆ブロック活動のお知らせ…⑩
- ◆事業部活動報告ー看護フェスタ…⑫
- ◆編集後記…⑫

## 令和5年度 第15回 定時社員総会報告

事務局長 中里 武史

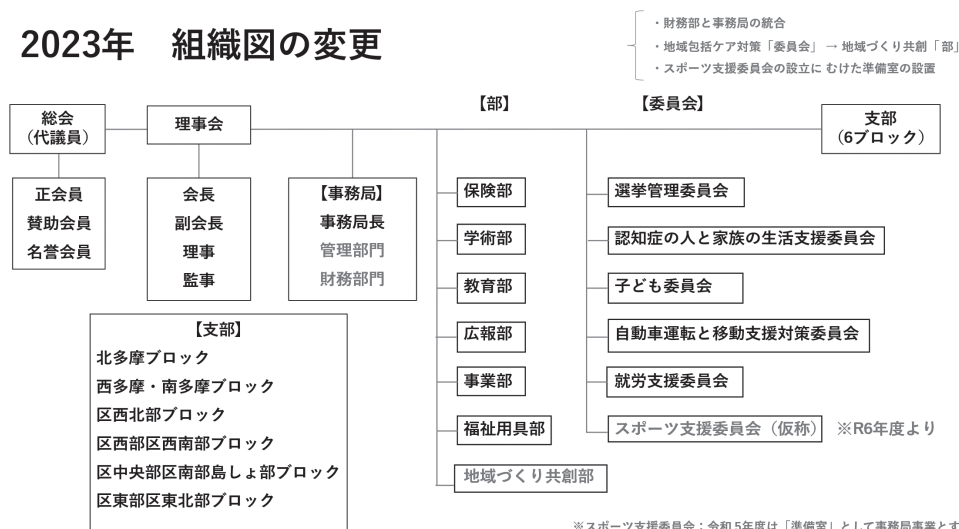
令和5年6月25日（日）TIME SHARING新宿の会場にて、令和5年度 東京都作業療法士会 定時社員総会を開催いたしました。

昨年度までは新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から代議員や役員の出席を控えていただき、ZOOMにて執り行わせていただいておりますが、今年度は2019年度以来の対面での定時社員総会を開催いたしました。

総会においては33名の代議員の委任状および書面表決書の提出を合わせて32名が有効数となり、すべての議案が成立しました。今回の総会では令和4年度の事業報告と決算報告、令和5年度の事業計画および予算案を議案としてすべて承認されました。総会議案書はホームページの「お知らせ（会員の方へ）」にも掲載しておりますので、ご参照いただけますと幸いです。

以下に今年度の組織体制とコロナ禍以降の会員数の変化についてまとめさせていただいております。引き続き、多岐に渡るようになった様々な依頼に対応し作業療法の発展に向けた活動や事業に取り組んで参る所存です。今後とも東京都作業療法士会の事業にご理解、ご支援くださいますようどうぞ宜しくお願い致します。

## ●令和5年度 組織図の変更



※スポーツ支援委員会：令和5年度は「準備室」として事務局事業とする

令和5年度より、組織体制を変更し理事会において定款施行規則の改定を行いました。

### ① 財務部を事務局に統合

コロナ禍以降、法人事業の負担がより事務局に集中する形になっています。

より円滑に法人運営が行えるよう事務局業務と財務業務を統合して対応することにいたしました。

② 地域包括ケア対策委員会を「地域づくり共創部」に変更

地域包括ケアに対して委員会として活動して参りましたが、地域包括ケアや地域共生の推進だけでなく、地域に作業療法を根付いていくための活動をより重視するために、委員会から部としての活動に変更することにいたしました。

③ スポーツ支援委員会(仮称)準備室の設置

e-スポーツ、パラスポーツ、リアルスポーツへの作業療法士の関わりについて重要性が増してきたことに対

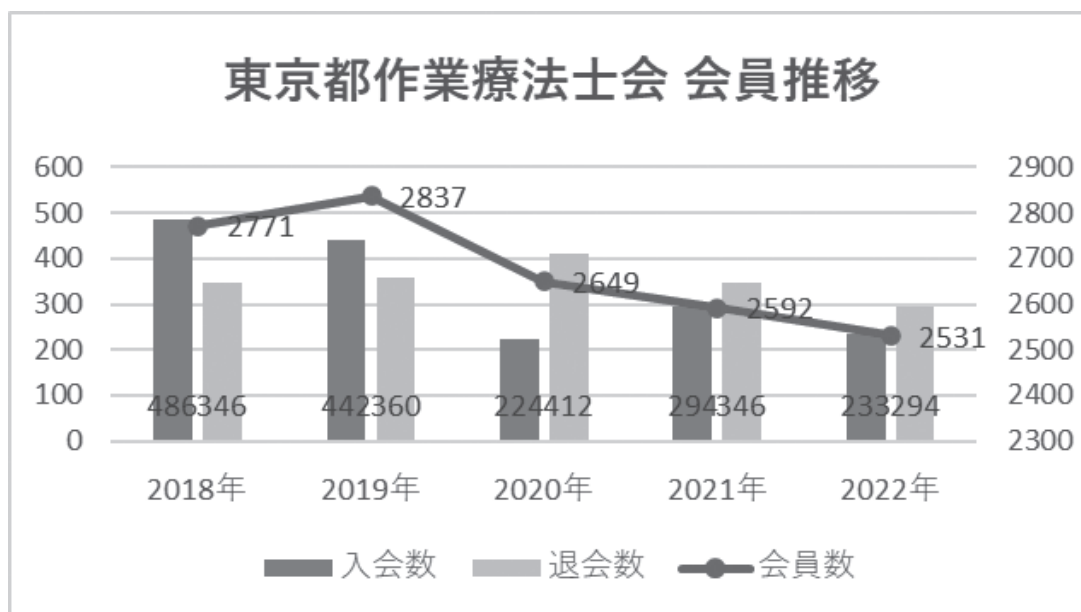
応するため、令和6年度からの委員会始動に向けた準備室を設置いたします。スポーツする側だけでなく、応援する側、支える側も含めて作業療法士としてスポーツを支援できるよう整備して参ります。

### ●コロナ禍における作業療法士会組織率の影響について

2020年を境に東京都作業療法士会の会員数は減少しています。

東京都においては、異動してくる方が減り、異動していく方が顕著となりました。

また、物価高や作業療法士の処遇、業務内容の変化等の影響から離職や経済面を理由として全国的に組織率は低下しています。組織率の向上や処遇の改善に向けては日本作業療法士協会ならびに全国の作業療法士会とも「協会員＝士会員」の取り組みも含めて協力して取り組んでまいります。処遇の改善や作業療法の展開を推進するためには専門職の団体として組織化していくことが非常に重要です。会員の皆さまには会費にてご負担をおかけしておりますが、引き続き東京都における作業療法の啓発や多方面への発展、地域支援の拡充等も見据えて取り組んでまいり所存です。今後の進展についてもニュースやホームページを通じてご報告させていただきますので、今後ともご支援くださいますようお願い致します。



## 教育部からのお知らせ

現職者選択研修（発達障害領域の作業療法）：2023年7月23日（日） 9時～16時10分

現職者選択研修（身体障害領域の作業療法）：2023年9月23日（土） 9時～16時10分

（いずれも延長の場合あります）

\*どちらもZoomでの開催となり、対面での実施はございません。

\*詳細は東京都作業療法士会のホームページをご参照下さいませ。

## こども×スポーツ×OT ～ジュニアわくわくスポーツ教室 活動報告～

東京都立大学 健康福祉学部 作業療法学科 山西 葉子

東京都障害者総合スポーツセンター（以下、センター）から東京都作業療法士会へ依頼を受け、令和3年度より親子対象のジュニアわくわくスポーツ教室の運営サポートに携わっています。スポーツ面からのアプローチだけでなく、「スポーツを通して、親子で楽しみ、心と体が健康になってほしい」との思いから、作業療法士と協働したいと思ってくださったようです。私自身、都立大学に着任して間もない頃でしたので、地域に関わることができるありがたい機会を頂きました。これまでの活動をご紹介します。

【教室の構成内容】対象は、知的障害を伴う4歳から中学生までのこどもとその保護者で、低学年と高学年の各グループ定員は10組です。1回50分、年間6回、今年度は日曜の午後に開催しています。場所は、センターのグラウンドや体育館、プールを使用しています。

【活動の詳細】センターのスタッフ3人に加え、当日ボランティアで行っています。事前に指導案が届きますので、私は、参加する子どもたちの認知心理面、運動面などの発達段階や特徴に応じ、アドバイスを行っています。グループ内で年齢も、発達段階にも幅があります。ことばによるコミュニケーションが難しい子、運動発達がゆっくりである子など様々です。情報提示の方法や難易度別の設定の提案、当日は一緒に動きながら、こどもにちょうどよい挑戦になるようアレンジを加えたり、保護者に近況を伺ったり、活動内容の狙いや発達段階との関係性をお伝えしたり、など行っています。保護者からも質問や日常生活上の相談を受けることもあります。保護者から得た情報は振り返りの時間にスタッフと共有し、次の計画や運営につなげています。



昨年度は、「家庭・学校で親や友達と全身を使ってできる運動の提案」がテーマでした。「投げる」にフォーカスする日、しゃがんだり、ジャンプしたりなど様々な体の使い方に挑戦する日など、スタッフの方が運動を軸に、こどもの興味を引くような様々な工夫を凝らして計画を立てています。私はその軸を大きく崩すことなく、少しのエッセンスを加えるような形でかわるよう意識しています。保護者からは「こんなに思い切り走り回ったりできないので、本当に楽しみにしているんです」「学校の先生に運動のことお伝えしたら、学校でも取り組んでくれました！」というコメントもいただいています。

【おわりに】毎回、親子で汗をたっぷりかいて、笑顔あふれて参加してくださっています。私自身も汗だくになり教室の日はぐっすり眠ることができています。この教室に来てお友達になって、センターの別教室にも一緒に参加したり、保護者の情報交換の場にもなり、つながりが広がっています。半数はリピーターで、同じクラスの友達に誘われて新規で参加している子もいます。

スポーツは「する」ことだけでなく「見る」「支える」「知る」など楽しみ方も様々ですが、成長過程にあるこどもたちが、からだを動かすことの楽しさを感じたり、できた！という達成感を持ち帰ったり、親子で過ごす楽しみの一つとなるよう、今後もセンターの方々と協力して取り組んでいきたいと思います。



## 子ども委員会活動報告

子ども委員会 八重樫 貴之

東京都作業療法士会子ども委員会では、都立肢体不自由および知的障害特別支援学校に外部支援専門家として勤務する、または今後かわる可能性のある会員を支援する目的で研修を企画しています。研修は座学研修と実践研修（見学実習・サポート研修）があります。

座学研修は、9月10日（日）に東京都教育委員会より講師をお招きして、特別支援学校に関わる外部専門家としての役割や業務内容、期待されることなどの基礎知識を学びます。外部専門家導入事業の背景や現在の東京都の教育体制、実際に外部専門家として特別支援学校に勤務している作業療法士の連携の実態などの内容を予定しています。毎年実施している研修となりますが、内容は毎回アップデートされており、様々な実践例を学ぶことができます。今年度は対面にて開催予定です。

見学研修は、特別支援学校に外部専門家として勤務している作業療法士の実際の現場に同行して見学します。特別支援学校の現場での学びを通し、外部支援専門家としての人材育成を図る事を目的としています。コロナ禍でここ数年は実施することができませんでしたが、今年度は実施予定です。特別支援学校で実際に勤務している作業療法士の様子を見学できる貴重な機会となっております。

詳しい研修内容は、東京都作業療法士会HPに掲載予定ですので、参加希望の会員はそちらをご参照ください。

## 名称が「地域包括ケア対策委員会」から 「地域づくり共創部」へ変更されます！

地域づくり共創部（旧・地域包括ケア対策委員会） 部員 川端 敦史

こんにちは！昨年度より当部会に所属させていただいております、川端です。「ICT機器を用いた高齢者の介護予防」をテーマに地域づくりに携わっております。

さて、コロナの5類移行から早くも2ヶ月、私たちの生活もかつての日常を取り戻しつつありますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。今年度も様々なカタチでの地域実践が行われ、地域で活躍されている作業療法士の方々を目にすることも多くなりました。そして、当委員会の事業規模も拡大傾向にある今、「委員会」から「部」へと名称が変更される運びとなりました。

正式名称は、「東京都作業療法士会 地域づくり共創部」となります。「共創（コ・クリエーション）」という言葉には、ステークホルダーと協働しながら新たな価値を生み出すという意味が含まれています。私たちの願いとして、地域に関わる全ての人々（ステークホルダー）と共に地域づくりを推進したいという想いがあり、この名称に決定しました。今後も、人と人とのつながりや人と社会とのつながりを作り出す作業療法のお手伝いのできればと考えております。

引き続き皆様のご協力を賜りながら活動を進めていきたいと思いますので、どうぞ新しく生まれ変わった「地域づくり共創部」をよろしくお願い致します。



## 『認知症の人と家族が、 今まで暮らしてきた地域で生活するために』

認知症の人と家族の生活支援委員会委員・群馬パース大学 竹原 敦

「認知症に関する世論調査」（内閣府、2019）によると、61.6%の人が「認知症の人と接した経験があり」、「認知症になると、身の回りのことができなくなり、介護施設に入ってサポートを利用することが必要になる」とイメージした人は前回調査（2015年）より上昇し40.0%であった。また、「認知症になっても、医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していける」と捉える人は前回調査より減少し32.6%と少なかった。認知症になった場合の不安については、「家族に身体的・精神的負担をかけるのではないか」（73.5%）、「家族以外の周りの人に迷惑をかけてしまうのではないか」（61.9%）、家族としての不安も、「ストレスや精神的負担が大きいのではないか」（65.1%）、「家族以外の周りの人に迷惑をかけてしまうのではないか」（58.3%）であった。この調査結果では、半数以上の人が認知症になると何もできなくなると捉え、70%ほどの人が、医療・介護サービスを受けたとしても、地域で生活することができないと考えていることになる。

今さらながら、作業療法士の出番である。本委員会は、認知症に関連する作業療法士向けの認知症アップデート研修を年1回開催している。また、都民を対象に、認知症の知識促進や作業の視点による生活の質の向上のため、東京新聞主催の研修なども開催予定である。「将来、認知症になったとしても、作業療法などの医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していける」と多くの人が思えるような社会になると良いと考えている。

## 認知症にやさしい本の紹介 VOL.39

川崎市立教育委員会 川崎市立宮前図書館 課長補佐 舟田 彰

### 『オレンジ・ランプ』

著者/山国秀幸

この本の帯に「実話をもとに描く夫婦の希望と再生の物語」というリード文があり、「解説・丹野智文」と記されている。まさにこの作品は丹野さんをモデル化した小説である。ご本人の講演会でお聞きした内容が小説になるとどうなるのか読み進めた。39歳で若年性認知症と診断される検査から始まる。読み進めていく中で主人公の段落と妻の段落が交互に構成され、時間軸の同時進行でその時々個々の心境が伝わってくる。お互いの気持ちが揺れ動いていることを感じる。そして、自分の子ども2人、勤務している会社の同僚たち、幼馴染の友人、そして地域社会での人との交わり。様々な人と交差することで認知症への考え方が変わっていく様子が描かれている。この主人公は認知症本人ミーティングの参加が転機になり、前向きな方向へ話が大きく動き始める。私自身、目頭が熱くなったり、清々しい気持ちになったり、元気や勇気をもらったりと今の丹野さんの活躍を見ているようだ。認知症になってその人が変わることはない。認知症になっても本人はそのまま本人であること。そして認知症になっても様々な工夫をして失敗してもまた工夫すればいい。また、私たちの声を聞いて、私たちが出来ることを奪わないで欲しい。お世話するのではなく共に歩いてほしい。これら丹野さんのメッセージを改めて痛感した。なお、図書館の場面もあり、改めて図書館の役割を再考してしまった。

## 保険Letter

### ～介護保険における福祉用具の貸与・購入の利用負担について～

保険部 横山雄一

福祉用具のレンタルは、福祉用具を利用しなくなった場合は返却可能なため、身体状況に応じて他の福祉用具に変更することができます。また、利用者の費用負担が少ないことがメリットとしてあげられます。一方で、利用期間によってはレンタルよりも購入の方が利用負担を抑えられるケースもあります。今回は実際のレンタル費用をもとに、福祉用具のレンタル5年間までにかかる費用例を以下にまとめました。

#### 例①：自走用車椅子

| レンタル例      | 費用/1か月 | 1年後     | 3年後      | 5年後      |
|------------|--------|---------|----------|----------|
| 自費レンタル     | 5,000円 | 60,000円 | 180,000円 | 300,000円 |
| 介護保険（1割負担） | 500円   | 6,000円  | 18,000円  | 30,000円  |
| 介護保険（2割負担） | 1,000円 | 12,000円 | 36,000円  | 60,000円  |
| 介護保険（3割負担） | 1,500円 | 18,000円 | 54,000円  | 90,000円  |

#### 例②：介護用ベッド

| レンタル例      | 費用/1か月  | 1年後      | 3年後      | 5年後      |
|------------|---------|----------|----------|----------|
| 自費レンタル     | 10,000円 | 120,000円 | 360,000円 | 600,000円 |
| 介護保険（1割負担） | 1,000円  | 12,000円  | 36,000円  | 60,000円  |
| 介護保険（2割負担） | 2,000円  | 24,000円  | 72,000円  | 120,000円 |
| 介護保険（3割負担） | 3,000円  | 36,000円  | 108,000円 | 180,000円 |

レンタルするものによって同じ車椅子やベッドでも費用が異なります。短期利用であればレンタルの方がお得な場合もあれば、長期利用の場合は購入の方がお得なこともあります。しかし、一旦購入すると、身体状況に応じた返却や交換ができないため、利用者に対して購入やレンタルに関する適切な情報提供を行う必要があります。

## 福祉用具部からのお知らせ

#### ■「電動車いす等の説明の動画を配信しています」

3月11日に「自動車運転と移動支援対策委員会」、「福祉用具部」がコラボして、研修会を開催しました。その一部で、電動車いすメーカーと販売店5社にご協力頂き、電動車いす等の説明動画を制作し配信しています。

なお、動画配信は都士会会員限定となっております。以下の要領で連絡をして頂き、会員情報を確認後、動画配信ページURLおよびパスワードをお送りします。

確認作業の関係で、1週間ほど時間を頂く場合もありますのでご了承ください。

宛先：tokyo.ot.yougu@gmail.com 件名：「電動車いす動画視聴希望」

①会員番号（OT協会） ②氏名（OT協会に登録している氏名）

③別の連絡先：送られたメールアドレスに返信できない場合に必要となりますので他の手段で連絡が取れる連絡先（携帯番号など）を記載してください

#### ●電動車いすメーカー・販売店

- ・ベルモビル株式会社（協力：有限会社アミックス）
- ・有限会社さいとう工房

- ・PSプロダクツ株式会社
- ・株式会社コボリン

※2023年度中は配信予定となっております

## 自動車運転と移動支援対策委員会 活動報告

～一般社団法人Wheelogが実施する社会福祉振興助成事業への協力～

自動車運転と移動支援対策委員会 委員長 大場秀樹

東京都作業療法士会は、一般社団法人Wheelogが実施する社会福祉振興助成事業（WAM助成事業）「車いすで安心して外出できる社会支援体制のモデル構築事業」への後援を行い、当委員会の委員が事業運営の核として携わっています。この事業は一般社団法人Wheelogが主体で、事業目的は「車いすユーザーが安心して外出できる地域をつくること」です。Wheelogは、車いすでもあきらめない世界を実現するために、①バリアフリー情報を共有できるアプリを開発し、車いすユーザーに情報提供すること。②車いす体験プログラムの街歩きを通して、車いすユーザーの社会参加機会を促進する活動に取り組んでいます。地域団体や企業と連携し、これまで5年間で30地域以上で街歩きを開催し、延べ1500名以上が参加しています。

WAM助成事業では、2つの事業を行います。1つ目は、地域特性を生かして車いす街歩きのプログラムを実施・運営できるコア人材の育成研修を行うこと。2つ目は、地域の車いすユーザー、医療・介護・福祉従事者、地域住民（多世代）、地域の医療・福祉団体、自治体と共に車いす街歩きプログラムを行い、社会参加の機会創出と地域のバリアフリー情報の充実を図ることです。これらは東北大学公共政策大学院と連携して効果判定を行います。事業は墨田区と町田市で実施し、2023年9月に墨田区と町田市それぞれ別日に車いす街歩きのプログラムを開催する予定です。詳細は、都士会ホームページでお知らせする予定です。この事業に興味のある方は〈sumida@wheelog.com〉までご連絡をください。

## 就労支援委員会よりお知らせ

就労支援委員会 松本 直之

### 障害者雇用のその先に目指す社会のあり方

今年の1月、障害者雇用代行ビジネスについてのニュースがありました。現在企業は、法定雇用率制度で従業員のうち一定数の障害をお持ちの方を雇用することが義務付けられています。そんな中、貸農園などを企業に提供し、働きたい障害をお持ちの方も紹介して雇用を事実上、代行するビジネスが広がっているということでした。利用している企業は、大手有名企業を含め約1000社以上。その大半は、農業と無関係で、多くの場合、農作物が市場に出ることはないそうです。障害者雇用は、障害をお持ちの方も働くことを通して社会に包摂されていくことを目指すものだったかと思います。このニュースから、働くことを支援する専門職として、自分達の役割と社会のあり方について、改めて考えたいと思います。

### 「就労支援委員会主催 オンライン事例検討会」開催のお知らせ

今年度も、就労支援委員会では、オンライン事例検討会を開催します！

当日は、就労支援委員会メンバーが事例を挙げ、就労支援委員会メンバー同士が支援方法などについて検討を進めていきます。参加者の方には、委員同士の事例検討をお聞き頂きながら、就労支援の実際を感じて頂きたいと思います。

終了後には、日々の支援で困っていることについて、一緒に考える時間も予定しています。みなさんのご参加お待ちしております。

日 時：2023年8月9日（水）19：00～20：30

締 切：2023年8月7日（月）17：00まで

開催方法：オンライン（ZOOM）

参加費：無料

定 員：10名

申し込み：こちらのURL→<https://forms.gle/FHpij3a8m6NEVxS59>

またはQRコード、東京都作業療法士会ホームページよりお申し込み下さい。



## JRAT災害支援スタッフの概要

都士会災害対策担当（東京都JRAT理事） 松岡耕史

都士会は東京都JRAT（日本災害リハ支援協会の東京支部）と協力し、災害リハ支援体制の構築を図っています。今回は、発災後の需要に応じた災害リハ支援活動を行うスタッフに関して紹介します。発災後にJRATからの要請により活動できる東京都在住または在勤のリハ職が対象で、事前に登録しておくことにより有事の際に速やかな派遣を行うことができます。

### 〈E-スタッフ〉

JRAT 災害支援緊急スタッフ：JRAT Disaster Emergency Assistance Staff  
災害発生後の緊急募集に応じる支援スタッフで、避難所でリハ支援活動を行う。  
事前トレーニングの有無は問わない。

### 〈D-スタッフ〉

JRAT災害支援スタッフ：JRAT Disaster Assistance Staff  
災害時に避難所などでリハ支援活動を担い、平時は研修会運営など後進指導を行う。  
事前にトレーニングを受け、東京都JRAT代表の推薦状を添えて登録が必要。

D- スタッフ規程



### 〈L-スタッフ〉

JRATロジスティクススタッフ：JRAT Logistics Staff  
災害時にJRAT本部（東京）や被災地の地域JRAT活動本部などに赴いて、本部活動およびその支援を行い本部活動のリーダー的役割を担う。  
事前にトレーニングを受け東京都JRAT代表の推薦状を添えて登録が必要。

L- スタッフ規程



### 〈R-スタッフ〉

JRAT初動対応チームスタッフ：JRAT Rapid Response Team Staff  
大規模災害発災直後、まず現地で早期に情報を収集し、本部立ち上げや支援を必要とする初動対応を行い、被災地のJRAT体制が整うまで支援する「JRAT初動対応チーム」として派遣される。  
R-スタッフ養成研修の受講は東京都JRATへ申し込みが必要。

JRAT-RRT 規程



R- スタッフ規程



ご不明点のお問い合わせや都士会の災害対策に興味がある、関わってみたい方は下記アドレスへご連絡ください。

tokyootsaigaitaisaku@gmail.com（都士会災害対策担当：松岡）

## ブロック活動のお知らせ

### 西部西南部ブロック

#### リエワークステーション中野 扇 浩幸

新年度も4か月がたち、このニュースが届いている頃は真夏ですね。社会的にはコロナもひと段落をして、夏休みのスケジュールを立てている人も多いでしょう。さて、私たち西部西南部ブロックでは、今年度は各担当区で少なくとも1回は、それぞれの区内のOTを集めて勉強会や顔合わせをしようという試みを考えています。研修で、いろいろなところで働くOTとは出会うけれど、意外と足元である自分の働く区のOTさんとはつなげる機会というのは中々ないのではないのでしょうか。中野区も、2年前に中野区支部を作りましたが、昨年度はなかなか活動を行うこともできませんでした。

ブロック活動をしていて、自分の働く地域に「顔見知りが増える」というのは、支援で困ったときの「相談先が増える」ことだと思うのです。私は、同じ地域で働くOTの横のつながり大切にしていきたいです。周りにはとても興味深い活動をしているOTさん実はたくさんいるかも……。ということで気になった方はぜひブロックのアドレスへお問い合わせください。(seibuseinanbu.ot@gmail.com)

### 区西北部ブロック

#### 清水 隆志

区西北部ブロックは、今年度の計画において6月に生涯教育制度についての研修を行い、下半期は来年度の都学会に向けて準備をすすめていく予定になっております。

6月に行いました生涯教育制度についての研修は、今回50名以上の応募がありました。ブロック内で同様な研修は3度目ですが、生涯教育制度に対して関心を持たれていると改めて感じ、また入会やキャリアアップの一助になれたらと思っています。

さて来年度は都学会の運営もあり、ますます活動が活発となる区西北部ブロックですが、ブロック活動に興味がある方を募集しています。活動を通じて他施設・領域のOTと交流もあり、良い経験になるかと思えます。御興味のある方は区西北部ブロックまでお

このニュースが皆様に届く頃は真夏の時期となっているかと思えます。暑さに負けないためにも体調管理に気を付けていきましょう。 連絡先：tokyo.ot.seihoku.block@gmail.com

### 区東部・東北部ブロック

#### 一色 航

皆様、はじめまして。4月より区東部東北部ブロック委員となりました一色と申します。今年の2月に行われた『地域づくり人材育成研修』への参加をきっかけに中谷様よりブロック委員へお誘いいただきました。普段は江東区の訪問看護ステーションに勤め、清澄白河や木場・東陽町、豊洲などの地域を対象に訪問リハビリをご提供しております。ブロック委員として何が出来るのかまだ手探りの状態ではありますが、個人的には同じ地区の作業療法士の皆様と情報交換や意見交流できる機会を楽しみにしております。地区ブロック活動の目的にもあるような作業療法士同士の連携やネットワークづくり、自治体や関連機関との連携強化などに貢献出来るよう微力ながらお役に立てるよう努力してまいります。最後に、当ブロックでは今年度は『キャリアプラン』、『コミュニケーション』、『暮らしぶり』をテーマにした研修会を予定しております。新人の方や若手の方もご参加しやすいよう調整中ですので、ご興味のある方は是非、覗いてみてください。

## 区中央部・南部・島しょブロック

森田 将健

港区、千代田区、文京区、台東区、中央区、品川区、大田区、島しょ部のOTで運営されている区中央・区南部・島しょブロックですが、都士会ニュースの記事を見て運営に加わってくださる方が徐々に増えてきています。ブロック長をはじめ、ブロック運営の各リーダーも運営委員に加わってから数年が経過しました。所属のOTが何を望んでいるのか、どのような活動が所属OTの興味を惹けるのか、どうすれば患者様に還元できる活動へとつながっていくのかなど、雑談や愚痴、笑い話を交えながら、熱くなりながら話し合いを進めています。今期の都学会を含め横（地域）のつながり、縦（世代）のつながりを広げていろいろな視点を取り入れたいと考えています。経験年数の制限等もありませんので、少しでも興味のある方は、ku.chuou.nanbu.ot@gmail.comまでご連絡ください。今号の都士会ニュースが配送される頃には、都学会も終わっているはずです。このニュースを見るころには色々と反省点についての検討と次のブロックへの引継ぎを行っていると思います。今期の反省点をぜひ、次のブロックには活かしていただき、更に楽しい、更に都士会員のためになる学会を作り上げていただければと思います。

## 北多摩ブロック

新妻 雅章

本年度から北多摩地区の副ブロック長となりました新妻雅章と申します。新たに作業療法士となられた皆様、おめでとうございます。私自身も4月から職場が変わり3ヶ月が経ち、やっと仕事に慣れてきました。まだまだ四苦八苦していますが、ブロック活動は継続させていただくので、昨年引き続き広報活動も頑張っていきたいと思います。今年度の予定としては、経験年数や領域など関係なく様々なOT同士でつながりがもてるようにと開催している座談会『ツドイノバ』、情報交換や勉強会・イベントが発信できるようにと開設した掲示板『北多摩OTチャンネル』。年明けにはMTDLPの事例検討会も予定しています。今年度も皆様との連携・絆を強めるべく、さまざまな活動に挑戦していきたいと考えております。引き続き、研修会や座談会で取り上げてほしい内容などございましたら、気軽に連絡をください。ブロック活動を一緒に盛り上げていってくださる方も募集しています！職場以外の場所でも、どんどん繋がっていきましょう！！

メールアドレス：ot.kitatama@gmail.com

## 西多摩・南多摩ブロック

今泉 幸子

当ブロックでは、ブロック運営メンバーの顔ぶれに少し変化があり、また新たな気持ちでブロック活動に取り組んでおります。

今年度も基本的にはオンライン会議形式で研修会の企画を進めていますが、年に2回は集合して話し合ったり親睦を深めたいと考えております。現在は10月のオリジナル研修会、12月の認知症アップデート研修会の企画をじっくり話し合っています。

コロナ禍も少しずつ終息に向かっている兆しもありますが、私ごとですが初めてのコロナ感染を経験し、まだまだ気を抜けないと感じている今日このごろです（泣）

あらためましてwithコロナ世界をOTのチカラで明るくしていきましょう！

各市区町村の所属ブロックに関しては都士会ホームページでご確認ください。



## 事業部活動報告一看護フェスタ

帝京大学医学部附属病院 リハビリテーション部 西原 将太

5月13日にて「第21回看護フェスタ」が開催されました。本イベントは、各医療専門職団体がそれぞれの団体の特色を活かしたブースを出展し、体験や相談を通して都民の健康への意識を高めることを目的としています。以前は新宿駅西口広場イベントコーナーで行っていましたが、今回からは新設された東京都看護協会会館での開催となりました。

今回、事業部のブースでは、認知症、高齢者の自動車運転、作業療法、日常生活リハビリテーションを中心に相談会を行いました。開催場所が変わったこともあり、目的をもって来場される方が多く、ブースに立ち寄ってくださった方の70%以上が既に作業療法をご存じでした。以前は通りすがりに参加される方も多く、知名度は50%程度であり、参加者の層の変化も大きな特徴でした。相談内容としては、認知症関連が多く、親世代の介護問題や、当事者としての不安が聞かれました。他にも、看護師と作業療法士で進路を迷っているという方も多かったです。以前は70代の相談が多かったのですが、前述のとおり参加者の層が変わった影響もあると思います。あまり想定していなかった相談でしたが、十分に作業療法士の魅力を伝えられたのではないかと思います。

新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行して、初めてのイベントであり、新たな課題が発見できたイベントとなりました。今回のアンケート結果も踏まえ、来場者のニーズを反映できるような戦略を立てていきたいです。

### 編集後記

皆さんのお手元にこのニュースが届く頃には久しぶりの対面での都学会が終わった頃だと思います。毎日満員電車で揺られて通勤していると、在宅勤務できる仕事が少し羨ましくなりますが、職場について同僚とたわいの無い話をしたり、患者さんと関わったりしていると、人と対面で関わる事について改めて考えることが多いです。簡単にキャンセルしたり、取って代わることのできない我々の仕事を誇りに思っ今日も頑張りましょう！

東京都作業療法士会広報部部长 水口寛子

※ニュースに掲載されている写真は、ご本人の同意を得たうえで掲載しています。

### ◆東京都作業療法士会 事務局

〒160-0022 東京都新宿区新宿5-4-1 新宿Qフラットビル501号室

TEL: 03-6380-4681 FAX: 03-6380-4684

◆東京都作業療法士会ホームページ <http://tokyo-ot.com/>

◆東京都作業療法士会ホームページ窓口 [postmaster@tokyo-ot.com](mailto:postmaster@tokyo-ot.com)

※お詫びとお願い：現在事務局での電話対応が困難な状況にあります。

ご質問・ご連絡は、FAX・メールにてお願いいたします。